

有効積算温度を利用した チャノキイロアザミウマ発生時期の予測方法



図1 チャノキイロアザミウマによる果実被害とチャノキイロアザミウマ（右下）

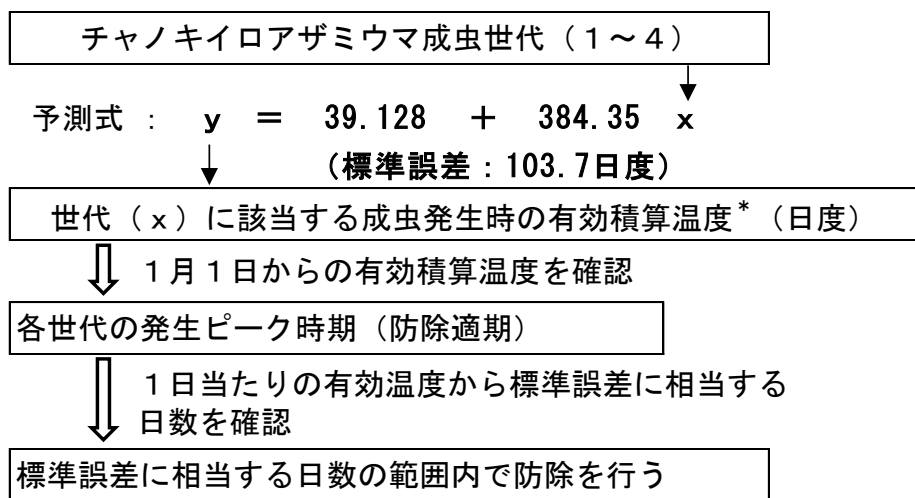


図2 チャノキイロアザミウマ発生予測式のフローチャート

*有効積算温度：1日当たりのチャノキイロアザミウマの活動温度（9.7℃～33.0℃）の時間を積算した温度（日度）。第1世代の有効積算温度（y）は423.5日度、第2世代は807.9日度。

開発のねらい

本県のブドウ栽培ではチャノキイロアザミウマによる果実被害（図1）が発生し、ブドウの商品価値の低下につながっています。そこで、本虫の発生に合わせた効果的な防除を行うために、発生時期の予測法を明らかにしました。

新技術の概要

- 県内ブドウ園地において、チャノキイロアザミウマの各世代における成虫発生ピーク時期と有効積算温度との間の発生予測式（関係式）を明らかにしました。
- 発生予測式にチャノキイロアザミウマの成虫世代（1～4）を挿入することで、各世代の発生ピーク時期の有効積算温度（y）を予測できます（図2）。
- 標準誤差と1日当たりの有効温度から効果的な防除期間が分かります（図2）。

活用場面

本技術は、県内の露地ブドウにおいてチャノキイロアザミウマの発生時期に合わせた防除が可能になり、チャノキイロアザミウマによる被害を減少でき、農家所得の向上が期待できます。